

平成 29 年度事業報告

1. 学術集会, 講演会等の開催 (定款第 4 条第 1 号)

(1) 年 会

第 90 回日本薬理学会年会『出島に学ぶ ～Therapeutic Innovation from Dejima～』

平成 29 年 3 月 15 日(水)～17 日(金), 長崎ブリックホール・長崎新聞文化ホールアストピア(長崎県長崎市)

年会長: 植田 弘師 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 創薬薬理学分野 教授)

参加者: 2,007 名

(学術評議員 531 名, 一般会員 406 名, 非会員 247 名, 大学院生 235 名, 学部学生 171 名,
名誉会員・永年会員・招待演者・共催セミナー・展示企業関係者・ボランティアスタッフ等 417 名)

総演題数: 912 演題

(Plenary Lecture 1 演題, 特別講演 8 演題, 特別招待講演 2 演題, JPS-ASCEPT Lecture 1 演題,
受賞講演 4 演題 (江橋節郎賞 1 演題, 学術奨励賞 3 演題), 教育セミナー 1 企画 2 演題,
シンポジウム 46 企画 156 演題, ナノシンポジウム 1 企画 6 演題,
JPS サテライトシンポジウム 1 企画 5 演題, 早朝ワークショップ 8 企画 24 演題,
優秀発表賞候補演題 64 演題, ナノシンポジウム優秀発表賞候補演題 17 演題,
一般演題 (口演) 162 演題, 一般演題 (ポスター) 380 演題,
若手研究者キャリア支援プログラム (学生セッション優秀発表賞候補演題) 80 演題)

(2) 地方部会

第 131 回日本薬理学会近畿部会

部会長: 戸荻 彰史 (愛知学院大学・歯)

平成 29 年 6 月 30 日 ウィンクあいち(愛知県名古屋市)

参加者 252 名, 一般演題 (口演 76)

第 136 回日本薬理学会関東部会

部会長: 古川 哲史 (東京医科歯科大学難治疾患研)

平成 29 年 7 月 8 日 東京医科歯科大学鈴木記念講堂(東京都文京区)

参加者 236 名, シンポジウム 4, 一般演題 (口演 51, ポスター 31)

第 68 回日本薬理学会北部会

部会長: 石井 邦明 (山形大学・医)

平成 29 年 9 月 15 日, 16 日 山形テルサ(山形市)

参加者約 120 名, 一般演題 (口演 59)

第 137 回日本薬理学会関東部会

部会長: 鈴木 秀典 (日本医科大学・医)

平成 29 年 10 月 28 日 日本医科大学 教育棟・橘桜会館(東京都文京区)

参加者 277 名, 特別講演 1, 教育講演 1, 一般演題 (口演 59)

第 70 回日本薬理学会西南部会

部会長: 宮田 篤郎 (鹿児島大学・院・医歯学)

平成 29 年 11 月 18 日 かがしま県民交流センター(鹿児島市)

参加者約 200 名, 特別講演 1, ランチョンセミナー 1, 看護薬理学教育セミナー 1,
一般演題 (口演 44, ポスター 18)

第 132 回日本薬理学会近畿部会

部会長: 金井 好克 (大阪大学・院・医)

平成 29 年 11 月 24 日 千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市)

参加者 288 名, 一般演題 (口演 89)

(3) 公開講座の開催

・公開講座 (第 90 回年会)

平成 29 年 3 月 17 日, 長崎ブリックホール(長崎市), 参加者 61 名

『依存性薬物の乱用とその実態－教育と行政の取り組み－』 責任者: 植田 弘師 (長崎大学・院・医歯薬)

・公開講座(近畿部会)

平成 29 年 6 月 30 日, ウィンクあいち(名古屋市), 参加者約 70 名

『しなやかで強い骨を守るために ～骨粗しょう症によるねたきりを防ぐ～』

責任者: 戸荻 彰史 (愛知学院大学・歯)

・公開講座(北部会)

平成 29 年 9 月 16 日, 山形テルサ (山形市), 参加者 52 名

『感染症に薬が効かなくなるのは何故か?』

責任者: 石井 邦明 (山形大学・医)

・公開講座(西南部会)

平成 29 年 11 月 19 日, かがしま県民交流センター (鹿児島市), 参加者: 33 名

『自律神経バランスの健康管理と抗ストレス食品について』 責任者: 宮田 篤郎 (鹿児島大学・院・医歯学)

(4) 他学会等との共催学術集会の開催

- ・日本薬理学会・日本医学会連合共催シンポジウム
第90回日本薬理学会年会時 平成29年3月16日, 長崎新聞文化ホール(長崎市)
『ミトコンドリア創薬—治療法の無い時代からの転換点』
オーガナイザー: 阿部 高明(東北大学・院・医工学)
安西 尚彦(千葉大学・院・医)
- ・日本薬理学会・日本生理学会共催シンポジウム
第90回日本薬理学会年会時 平成29年3月16日, 長崎新聞文化ホール(長崎市)
『痛み, 痒み, しびれなどの感覚受容の分子機構に関する最先端研究』
オーガナイザー: 富永 真琴(自然科学研究機構・岡崎バイオサイエンスセンター)
川畑 篤史(近畿大学・薬)
- ・日本薬理学会・日本臨床薬理学会共催シンポジウム
第90回日本薬理学会年会時 平成29年3月16日, 長崎新聞文化ホール(長崎市)
『糖尿病の薬理/臨床薬理 新たな血糖調節メカニズムの解明と Precision Medicine へのロードマップ』
オーガナイザー: 植田真一郎(琉球大学・院・医)
寺本 憲功(佐賀大学・医)
- ・日本薬理学会・日本毒性学会合同シンポジウム
第44回日本毒性学会学術年会時 平成29年7月11日, パシフィコ横浜・会議センター(神奈川県横浜市)
『細胞内小器官シグナルネットワークを介する臓器毒性制御』
オーガナイザー: 上原 孝(岡山大学・院・医歯薬)
西田 基宏(自然科学研究機構・生理研)

(5) 内外の関連学術団体との連携及び協力

- ・2017年4月開催のASPET年会(シカゴ)において, ASPET(米国薬理学会)とJPS(日本薬理学会)との講師交換プログラムとして飯野正光国際対応委員長が講演を行った。
- ・ASCEPT(オーストラリア・ニュージーランド薬理学会)のMary Chebib氏を第90回年会(2017年3月開催)に招へいし, 講演が行われた。2017年12月開催のASCEPT年会(ブリスベン)に杉山 雄一氏(理研)を派遣した。
- ・Pharmacology2017(英国薬理学会, 2017年12月開催)の日英ジョイントシンポジウムに成宮 周 WCP2018 会長と石井 優教授(大阪大学)がシンポジストとして参加した。
- ・2017年11月開催の韓国薬理学会(ソウル)に飯野正光国際対応委員長が参加し講演した。
- ・IUPHAR Nomenclature Committee (NC-IUPHAR) の会合(2017年10月13日~15日, パリ)に貝淵 弘三教授(名古屋大学)が参加した。
- ・IUPHAR Executive Committee が10月27日と28日にイタリアのリミニで開催され, IUPHAR の理事会に2nd Vice Presidentの飯野正光国際対応委員長が出席し, WCP2018の準備状況について報告を行った。
- ・IUPHAR Education Project(発展途上国等の薬理学教育を推進する目的のプログラム)に3年間の期限付き財政的援助の第2回目として平成29年度分1万ドルを送金した。
- ・APFP(Asia Pacific Federation of Pharmacologists)のホームページリニューアルを支援した。

2. 学会誌等刊行物の刊行(定款第4条第2号)

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号	133巻1~4号, 134巻1~4号, 135巻1~4号 134巻 Supplement (the 90th Annual Meeting)	掲載頁数	(篇数)
① Review		29 頁	(3)
② Full Paper		630 頁	(82)
③ Short Communication		40 頁	(11)
④ Letter, 他		1 頁	(1)
	小計	700 頁	(97)
⑤ Vol.133 Supplement		298 頁	
	合計	998 頁	(98)

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジカ）の刊行

発行巻号（部数） 149巻 1号(4,050部), 149巻 2, 3号(各4,100部),
149巻 4号(3,200部), 149巻 5号(3,300部), 149巻 6号(3,450部),
150巻 1号(3,550部), 150巻 2号(3,600部), 150巻 3号(3,650部),
150巻 4号(3,750部), 150巻 5号(3,800部), 150巻 6号(3,850部)

	掲載頁数	(篇数)
① 特集序文	15 頁	(15)
② 特集および総説	334 頁	(61)
③ 実験技術	24 頁	(4)
④ 創薬シリーズ	51 頁	(9)
⑤ 新薬紹介総説	87 頁	(8)
⑥ キーワード解説	8 頁	(3)
⑦ 最近の話題	8 頁	(8)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	13 頁	(13)
⑨ 学会便り/研究室訪問	9 頁	(9)
⑩ アゴラ	24 頁	(12)
⑪ 広告	96 頁	
⑫ 綴込み, 目次等上記以外の頁	189 頁	
合計	858 頁	(142)

(3) WCP2018 開催に向けて, 参加者への配布を目的に, 薬理学パンフレット「日本薬理学会の貢献 (仮称)」を作成中である。
和英2ヵ国語で作成し, ホームページからも世界に発信する。

(4) 会員名簿の発行

平成29年より新会員管理システムの検索機能を利用したWeb名簿に移行した。

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第4条第3号)

(1) 第10回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

池谷 裕二 (東京大学大学院薬学系研究科・教授)

第11回日本薬理学会江橋節郎賞決定

萩原 正敏 (京都大学大学院医学研究科・教授)

(2) 第32回日本薬理学会学術奨励賞授賞 (所属等の標記は授賞時)

金丸 和典 (東京大学大学院医学系研究科細胞分子薬理学講座・助教)
『カルシウムイメージングで切り拓くアストロサイト機能』

佐々木拓哉 (東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学教室・助教)
『脳細胞ネットワークの機能動態とその破綻機構の解明』

塩田 倫史 (岐阜薬科大学学生体機能解析学大講座分子生物学研究室・准教授)
『ドパミンD₂受容体を介した細胞内シグナル伝達機構の解明』

第33回日本薬理学会学術奨励賞決定 (裏表紙)

(3) 第22回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定 (掲載順)

Inhibition of Autophagy Contributes to Melatonin-Mediated Neuroprotection Against Transient Focal Cerebral Ischemia in Rats

Yongqiu Zheng, Jincal Hou, Jianxun Liu, Mingjiang Yao, Lei Li, Bo Zhang, Hua Zhu, and Zhong Wang
Vol. 124, No. 3 pp. 354-364 (2014)

Assessment of Testing Methods for Drug-Induced Repolarization Delay and Arrhythmias in an iPS Cell-Derived Cardiomyocyte Sheet: Multi-site Validation Study

Yuji Nakamura, Junko Matsuo, Norimasa Miyamoto, Atsuko Ojima, Kentaro Ando, Yasunari Kanda, Kohei Sawada, Atsushi Sugiyama, and Yuko Sekino
Vol. 124, No. 4 pp. 494-501 (2014)

(4) 2017年度 JPS 優秀査読者賞

- ・ Hye Sun Kim (Seoul National University Department of Pharmacology, College of Medicine, Korea)
- ・ 吾郷 由希夫 (大阪大学大学院薬学研究科)

(5) 第90回年会優秀発表賞（五十音順・10名）

宇津 美秋（千葉大・院薬・臨床薬理学）	長坂 明臣（九州大・院薬・薬効安全性学）
大町 紘平（熊科大・院薬・遺伝子機能応用学）	二之湯 弦（神戸大・バクテリア研・分子薬理学）
大森 啓介（東京大・院農・放射線動物科学）	平野 満（京都大・院工・分子生物化学）
亀井 竣輔（熊科大・院薬・遺伝子機能応用学）	松田 将也（摂南大・薬・薬効薬理学）
勢力 薫（大阪大・院薬・神経薬理学）	南嶋 洋司（九州大・生医研・分子医科学）

4. 薬理学に関する研究及び調査（定款第4条第4号）

(1) 薬理学エデュケーター制度の検討

本制度は、優れた薬理学教育者を育成・支援することを目的に設置されるもので、ワーキンググループを編成して薬理学エデュケーター制度実施要件等の検討を行っている。

(2) 薬理学エデュケーター制度導入や新しい分野の取り込みの一環で、本会で使用されているカテゴリー表に新たな項目を追加することおよびカテゴリー表の再編に向けて、所管委員会で検討を行っている。

5. 内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第4条第5号）

(1) 学術集会の共催および連携 上記1.の(4), (5)を参照

(2) 学術集会の協賛・後援（平成29年年会から平成30年通常総会前日まで）

協 賛

1) 第24回HAB研究機構学術年会	平成29年6月1日～3日
2) 第21回活性アミンに関するワークショップ	8月25日
3) 日本看護研究学会第43回学術集会 看護薬理学教育セミナー共催	8月30日
4) CBI学会2017年大会	10月3日～5日
5) 第27回日本循環薬理学会	12月1日
6) 分子生物学会・生化学会2017合同大会	12月6日～9日
7) 第21回日本ヒスタミン学会	12月21, 22日

後 援

1) 第12回日本分子イメージング学会総会・学術集会	平成29年5月25, 26日
2) 第64回日本実験動物学会総会	5月25日～27日
3) 日本ケミカルバイオロジー学会 第12回年会	6月7日～9日
4) 医療薬学フォーラム2017 第25回クリニカルファーマシーシンポジウム	7月1, 2日
5) 第63回脳の医学・生物学研究会	7月29日
6) 第22回日本病態プロテオーム学会	8月11, 12日
7) 日本薬学会薬理系部会「生体機能と創薬シンポジウム2017」	8月24, 25日
8) 第19回応用薬理シンポジウム	9月15, 16日
9) 創薬薬理フォーラム第25回シンポジウム	9月21, 22日
10) 第20回カルシウム結合蛋白質とカルシウム機構の 生理と病態に関する国際シンポジウム (CaBP20)	10月22日～26日
11) 第2回黒潮カンファレンス	10月28, 29日
12) 第5回国際サイトカイン・インターフェロン学会年会2017	10月29日～11月2日
13) 日本動物実験代替法学会第30回大会 レギュラトリーサイエンスと3Rs	11月23日～25日
14) 日本薬物動態学会第32回年会	11月29日～12月1日
15) 第64回「脳の医学・生物学研究会」	平成30年1月20日

6. 会議等の開催状況（平成 29 年年会から平成 30 年総会前まで）

総 会	平成 29 年度通常総会	平成 29 年 3 月 15 日	(長崎)
学術評議員会	平成 29 年度	平成 29 年 3 月 15 日	(長崎)
理 事 会	平成 29 年度 第 3 回 第 4 回	平成 29 年 7 月 7 日 12 月 8 日	(東京) (東京)
	平成 30 年度 第 1 回 第 2 回	平成 30 年 2 月 3 月 9 日	(書面決議) (東京)
WCP2018 組織委員会 (右記の他各種委員会を 毎月開催)	財務委員会 執行部打合せ プログラム委員会 Bursary 採択選考	平成 29 年 9 月 5 日 12 月 19 日 12 月 20 日 平成 30 年 2 月 7 日	(東京) (東京) (東京) (東京)
総務委員会	平成 29 年度 第 1 回 持ち回り開催	平成 29 年 11 月 3 日	(東京)
財務委員会	平成 29 年度 第 1 回 予算案検討ワーキング 会 計 監 査 監 事 監 査	平成 29 年 11 月 9 日 10 月 31 日 平成 30 年 1 月 12 日 1 月 26 日, 29 日 平成 30 年 2 月 7 日	(東京) (東京) (東京) (東京) (東京)
編集委員会	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 3 月 16 日	(長崎)
研究推進委員会	平成 29 年度 第 1 回 第 2 回	平成 29 年 3 月 16 日 6 月 26 日	(長崎) (東京)
広報委員会	平成 29 年度 第 1 回 第 2 回	平成 29 年 3 月 15 日 8 月 30 日	(長崎) (東京)
企画教育委員会	平成 29 年度 第 2 回 平成 30 年度 第 1 回 次世代の会 薬理学エデュケーター ワーキング	平成 29 年 3 月 17 日 平成 30 年 1 月 31 日 平成 29 年 3 月 16 日 平成 29 年 8 月 31 日	(長崎) (東京) (長崎) (東京)
賞等選考委員会	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 9 月 19 日	(東京)
年会学術企画委員会	平成 29 年度 第 1 回 持ち回り開催	平成 29 年 6 月 3 日	(東京)
江橋賞選考委員会	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 10 月 27 日	(東京)
国際対応委員会	平成 29 年度 第 1 回 第 2 回	平成 29 年 3 月 15 日 12 月 8 日	(長崎) (東京)
利益相反(COI)委員会	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 11 月 3 日	(東京)

7. 会員状況（平成 29 年 12 月 31 日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代議員 (正会員に含む)	名誉会員	永年会員	正会員		総数
			学術評議員	一般会員	
1 3 9	1 1 8	8 5	1, 2 5 6	2, 8 6 2	4, 3 2 1
- 1	+ 1	+ 5	- 3 4	- 2 4 7	- 2 7 5

新入会者数：288 名，退会者数：563 名（逝去者，会費未納除籍者含む）

平成 29 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。